

## 第3回

# 「介護予防・日常生活支援総合事業の充実に向けた検討会」

介護予防・日常生活支援総合事業の  
充実に向けた検討会（第3回）

令和5年6月30日

資料  
1-1-2

## 総合事業の充実の議論に向けて

# 「住民主体の助け合い活動」の取り組みから 見えること

2023年6月30日

公益財団法人さわやか福祉財団  
理事長 清水 肇子



## さわやか福祉財団の概要（1991年創立）

超高齢社会における互助・共助を柱とした地域づくりを  
住民・市民の立場から提言・実践する活動を推進

### 【基本理念】新しいふれあい社会の創造

特定の大口寄付によらず、全国の個人・企業・団体からの寄付で任意団体から財団法人化  
活動財源：ほとんどが寄付及び寄付不動産等の収益、他に助成金・委託金等

「子どもから高齢者まで**すべての人が**、それぞれの**尊厳を尊重**しながら、**いきがい**をもって、  
**ふれあい、助け合い、共生する地域社会**（「新しいふれあい社会」）を構築することを  
目指す」

### <取り組みの柱>

- 全国各地での助け合いの地域づくりを強力に支援（直近3年間で1311件・次シートご参照）
- 企業・団体・学校等関係機関も含めた社会参加・ボランティア活動推進と寄付文化の推進
- 住み慣れた自宅・地域で暮らし続けるための諸政策提言
- 主体的に社会とつながる新しい生き方・働き方の提案、情報発信

<b>全国での助け合いの地域づくり支援 年度別実施状況</b> （さわやか福祉財団主催・協力、講師・企画支援などの件数）	<b>2022 年度</b>	<b>2021 年度</b>	<b>2020 年度</b>
都道府県担当職員に対し、助け合いの特徴や支援についての理解を促進する研修会	7	5	9
市区町村向け生活支援コーディネーター・協議体の選出方法を検討するフォーラム、研修会等	55	21	21
生活支援コーディネーターとの非公式勉強会	4	12	15
生活支援コーディネーター同士の情報交換会	27	24	40
市区町村単位での一般市民向け講演会・フォーラム	45	19	9
協議体会議に参加しての戦略会議	19	32	19
生活支援コーディネーター養成研修、フォローアップ研修	45	38	29
生活支援コーディネーター・協議体向け勉強会	34	34	21
助け合い創出の勉強会	18	15	9
担い手養成研修	7	7	2
その他（上記以外） 協議体情報交換会／庁内連携に向けた勉強会／助け合い活動視察ツアー 地域づくり加速化事業関連／実施にかかる関連打合せ 等	314	236	119
<b>合 計（新型コロナウイルス感染症拡大前 最大839件＝2018年度）</b>	<b>575</b>	<b>443</b>	<b>293</b>

# さわやか福祉財団 「地域助け合い基金」 から コロナ禍を受けて寄付による資金で活動支援

## 助成実績

909件

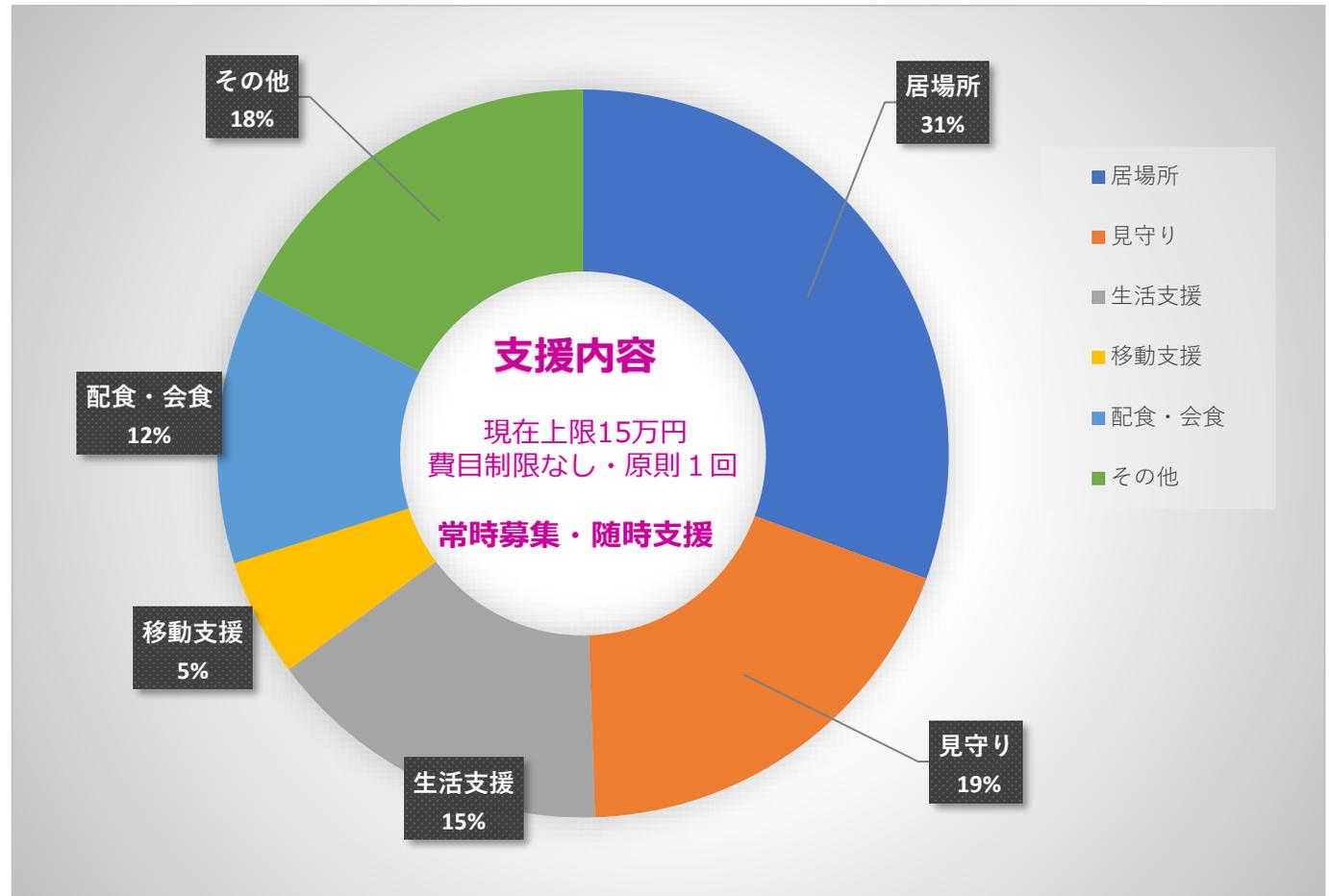
144,552,768円

2020年5月～

2023年3月31日現在

すべてご寄付（ふれあい  
遺贈基金を含む）で  
全国の活動を応援

※グラフ内訳は、上記期間に  
助成した活動の内容  
その他＝健康体操、就学支  
援、地域におけるつながり  
づくり等



## 各地の住民主体の活動から

### NPO法人ふれあい天童(山形県天童市)

総合事業サービス B (訪問、通所) ・ D

既存の住民主体による助け合い活動に補助を受け、取り組んでいる事例



#### 有償ボランティアによる助け合い活動

謝礼金：700円/1時間(基本は30分から)+交通費  
(活動者600円 100円=(各50円) 運営費として団体へ)  
活動開始：1993年～

#### 《主な活動内容》

##### ～家事援助サービス～

食事の世話・掃除・洗濯・整理・買い物・留守番・話し相手・薬もらい等

##### ～外出支援サービス～

通院介助・外出介助

##### ～介助～

軽介護・食事介助・散歩の介助・リハビリ介助

##### ～その他の活動～

産前産後のサポート・子育てサポート  
緊急時の病児サポート・福祉啓発研修会

##### ～常設共生の居場所～

## 洗濯サービス

- 家族に代わって、施設に入所中の方や病院に入院中の方等の洗濯をしています。



「これまでの活動を変えないのであれば」と天童市から補助を受けている。

総合事業サービスB  
(訪問・通所) とD

補助対象経費の1/10または  
50万円のいずれか低い額  
(年額)

会員は約200名  
家の中でのサポート  
(食事づくり、洗濯、部  
屋の片付け、トイレ掃除、  
風呂掃除)、風呂見守り、  
買い物のニーズが増加。  
ケアマネジャーからの問  
い合わせも増えている。

## 玄関の掃除



## お墓参り



の〜んびり茶の間（常設共生の居場所 月曜〜金曜日開催）



居場所の利用者がボランティアとして活動



# NPO法人元気な仲間／たすけあい高島(滋賀県高島市)

	訪問型サービス (従前相当)	訪問型サービスA	訪問型サービスB (住民主体)
開始時期	平成28年4月	平成28年4月	平成29年7月
主な内容 (一例)	入浴・排泄等の介助 掃除・ごみ出し 生活必需品の買い物 食事の準備・調理 衣類の洗濯・整理 薬の受け取り	掃除・ごみ出し 生活必需品の買い物 食事の準備・調理 衣類の洗濯・整理	掃除・ごみ出し 生活必需品の買い物 食事の準備・調理 衣類の洗濯・整理 電球の交換
方法	事業者指定	事業者指定／委託	補助
時間	1回60分程度	1回60分以内	1回60分以内
提供主体	介護保険事業所	介護保険事業所 NPO法人	シルバー人材センター たすけあい高島
従事者	訪問介護員 (ホームヘルパー)	訪問介護員 <u>一定の研修修了者</u>	<u>一定の研修修了者</u>

年間1038回、  
年間利用者数  
18人 (延べ217人)

年間577回、  
年間利用者数  
12人 (延べ158人)

## 総合事業サービス 訪問A・B

住民主体による助け  
合い活動ほか、介護  
保険事業、ファミ  
リー・サポートセン  
ター事業等、多様な  
活動と併せて取り組  
んでいる事例

総合事業等  
活動者登録26人

サービスA 17人  
サービスB 11人  
たすけあい 20人

たすけあい高島  
会員数 938人

よろしく会員 545人  
まかせて会員 327人  
両方会員 66人

# 高島市 訪問型サービスB

## 高島市での取り組み

### ◎訪問型サービスB（住民主体）

- ・平成29年7月よりスタート
- ・生活援助（掃除・洗濯・買い物・ゴミだしなど）
- ・週1回（60分以内）を限度。

利用者は1回につき200円負担する。

市補助＝1回につき1200円

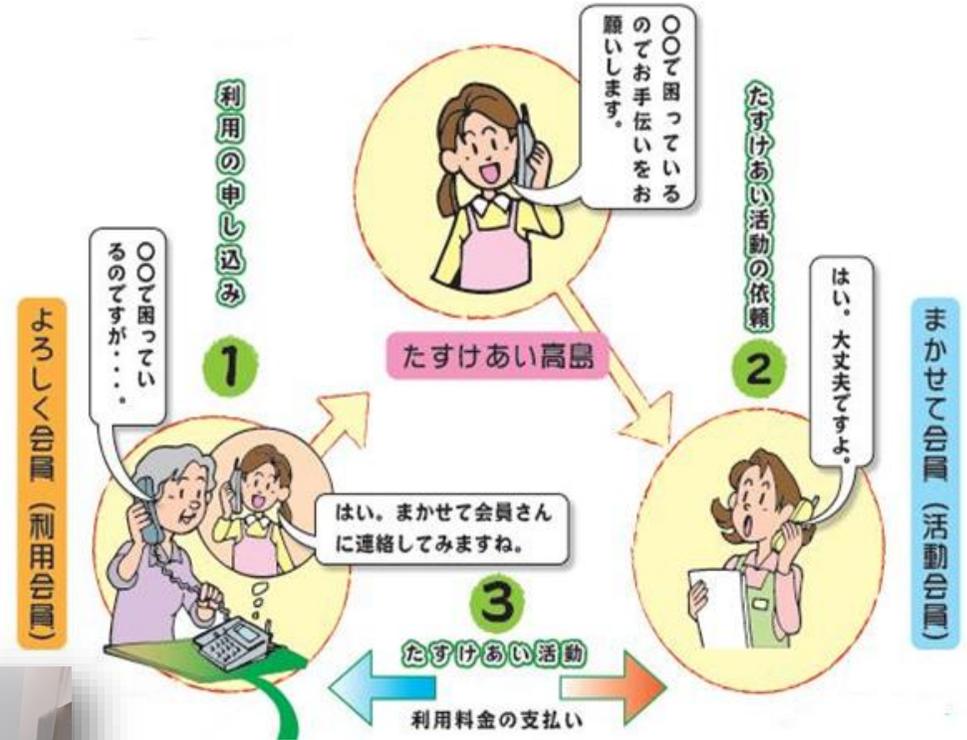
#### 【実施団体】

- ・高島市シルバー人材センター
- ・NPO法人 元気な仲間（たすけあい高島）



## 「たすけあい高島」の活動

地域住民自らが生活の中の困りごとを相互扶助によって助け合う仕組み



謝礼金：800円/1時間（活動者へ全額）  
（以降30分毎400円加算）

【有償ボランティア活動】  
※活動保険料は法人負担

# 「たすけあい高島」への活動依頼内容（2022年度＝2179件）

## 活動依頼の上位は生活支援！

1. 掃除・洗濯
2. 調理・食事準備
3. 除草・剪定
4. 外出サポート
5. 買い物・買い物付き添い
6. 屋内外片付け・整理
7. 傾聴・見守り
8. 通院付き添い

こんな参加方法も…

まかせて会員さんと親しくなっていくことで

友人や家族ぐるみで活動に  
理解・協力

母親の活動参加を見て仕事が休みの  
時に活動に参加



# 子どもも大人も様々な世代の人が 気軽に集まれる取り組みを展開



子どもの食物アレルギーをテーマにした講座 まかせて会員さんとファミサポの子育て世代の会員さんとで米粉のピザ作り



# NPO法人みんなの元気塾（京都府精華町）

## 総合事業サービス 通所B

サロン活動を基に、会員同士の生活支援活動にも取り組んでいる事例。居宅介護支援事業も同所で実施



通所 B 対象 「元気塾サロン」 コロナ禍により月・金曜日の週 2 日 / 2 時間

令和 5 年 6 月「みんなの元気塾サロン」 (赤字は休業日です。)

日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				1	2	3
					元気塾サロン	
4	5	6 若選り体操 (10時~11時) 園トレ教室(11時~11時半)	7 自強術	8	9	10
	元気塾サロン				元気塾サロン	
11	12	13 若選り体操 (10時~11時)	14 自強術	15 B 援助っ人の会	16	17
	元気塾サロン		習字サロン (1時半~3時半)		元気塾サロン	
	京丹後市視察研修					
18	19	20 若選り体操 (10時~11時)	21 自強術	22	23	24
	元気塾サロン				元気塾サロン	
25	26	27 若選り体操 (10時~11時)	28 自強術	29 わらべ歌の会	30	
	元気塾サロン		習字サロン (1時半~3時半) 源氏の会		元気塾サロン	

いつでも誰でも型常設サロン

申し込みは原則不要

<精華町通所 B 補助金対象>

週 1 回 / 1 日 2 時間以上  
対象参加人数 5 人 / 回・30 人 / 月  
以上

1 月当たり開所回数 1~4 回まで  
1 回当たり 3500 円

1 月当たり開所回数 5 回以降  
1 回当たり 2500 円

元気塾サロン参加利用者 200 円

テントの下で「元気塾カフェ」も昨年オープン・現在週 1 回。地域住民の皆さんが自由に集まってくる。移動スーパーのとくし丸とも連携



「みんなの元気塾」にて  
団体活動関係者、精華町職員、  
生活支援コーディネーターの  
皆さんと意見交換



## 元気塾助け合い事業

会員相互の困った時はお互い様の助け合い。  
掃除、洗濯、買い物、ゴミ出し、食事の世話、庭の  
草取り、ペットの散歩、話し相手、病院の付き添い、  
季節の入れ替え、薬もらい 等  
1時間600円、30分300円



## 「実家の茶の間・紫竹」（新潟県新潟市）

新潟市の地域包括ケア推進モデルハウス（市と住民の協働事業 代表・河田珪子さん）  
8周年を迎えての利用者アンケート結果から（20代～90代 様々な人50名 60～80代が8割）

### 「茶の間に来る前の状態」抜粋（複数回答）

- ・知り合いがいなかった／何をするのもおっくうになっていた
- ・夜眠れないなどの生活リズムの低下
- ・読書や趣味活動の低下
- ・人とのつながり、役立ちたいと思った

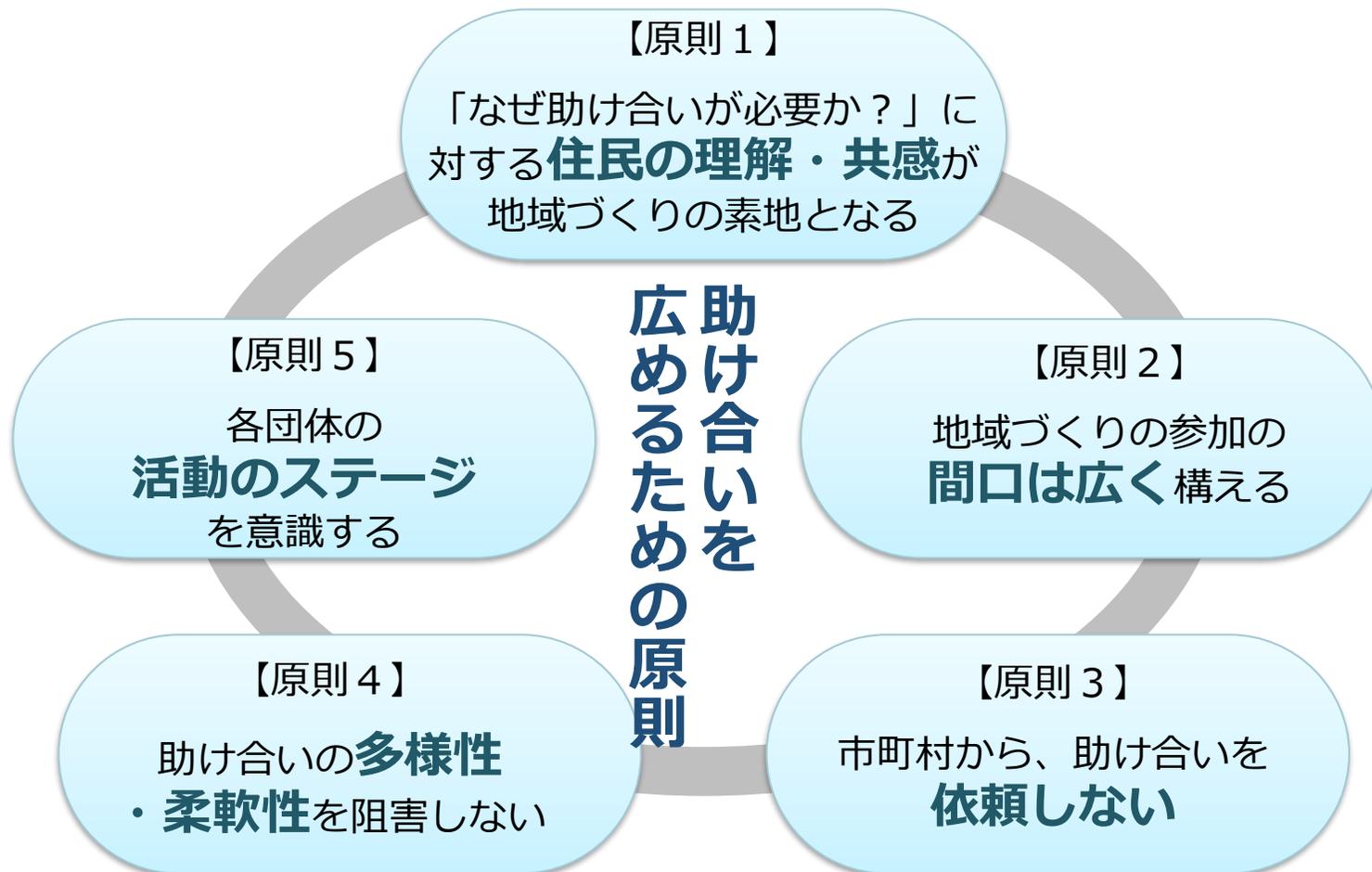
### 「通い続けられた理由」抜粋（複数回答）

- ・場の自由な雰囲気と特長
- ・自分の得意なことで役に立てる／喜んでもらえることがある
- ・人とつながることで今後の生活に張り合いや安心感ができた
- ・夜眠れるようになった  
（要介護3・認知症の女性も参加している）

「おしゃべりなどの社会的欲求が、茶の間に通う間に次第に他者から認められたいという自尊欲求や自分のできることで誰かの役に立ちたい、喜ばせたいなどの自己実現の欲求に変化していることが見え。また多様な人たちが出会いつながり、お互い様の関係が生まれている。こうした居場所を広げていくことが地域共生社会の実現につながるのではないか。」（河田氏）

# 助け合い活動の特徴の理解と基盤づくりの強化

地域の状況を踏まえてどのように取り組んでいくのか、  
住民の声を反映しながら進める土台となる基盤づくりが重要



### 訪問型サービスB

---

助け合いの生活支援は例えば、部屋の掃除、風呂掃除、洗濯、買い物、調理をはじめとする家事支援や、話し相手など、頼みたいときに謝礼を払うことで、気兼ねなく頼める有償ボランティアの仕組みが多い。

「困ったときはお互いさま」の理念のもと、助ける側も助けられる側も双方向の関係が生まれるため、頼む側は**それまでやってきたことが継続できる、困ったら頼める、受けるばかりでなく、時には助ける側にもなれる**という効果がある。

また、日常生活の経験を活かし「できるときに・できることを」と多様な住民が担い手として参加できるため、**得意なことで社会参加**することにつながり、

「ありがとう」と言ってもらうことで**いきがいが生まれ、結果、介護予防**にもつながる。

### 通所型サービスB

---

高齢者を中心にしながらも、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが

「行きたいときに行くことができ、帰りたいときに帰れる」

「何をしても自由でやりたいことが実現できる」居場所にして行くことが、地域での多様なつながりを生み、共感が生まれ、気になる関係から助け合う関係に発展していく。受け身体をつくらない、主体的な参加は「楽しい」場となり、**結果、介護予防をはじめとしたさまざまな効果**が生まれる。

それは**地域共生社会**につながる場となる。

# 地域活動推進の観点からみた活動・サービスの関係 「つながる力」と「つなげる力」で進める地域づくりへの理解

## 自助

- 自らつながろうとする力
- でも頑張りすぎない

## 互助

- できることで助け合う力
- でもできないことはお願いし合う

## 共助

- 社会保険で皆で支え合う
- でも質量ともに制限がある

## 公助

- 安心の大切な基本のよりどころ
- でも依存しすぎない

自助⇨互助の  
一体となった推進

自助⇨互助との  
連携と、推進の支援

## 2013年12月に「新地域支援構想会議を結成」

全国規模で助け合い活動支援や高齢者福祉等を推進する14の民間組織が連携  
(呼びかけ団体:さわやか福祉財団、全国社会福祉協議会、日本生活協同組合連合会)

## 2014年に提言として「基本的な考え方」(2月)、「新地域支援構想」(7月)を発表

助け合い活動は  
公的福祉制度の代替  
ではない。  
地域社会とのつながりを  
回復するという固有の役割

助け合い活動は  
多様であり形式も様々。  
支援を受ける高齢者自身も  
利用者であり、担い手でも  
あるという参加の考え方

要支援者等の高齢者のみに  
限定せず、  
子ども、障がい者も含め、  
幅広く対象に

助け合い活動の自主性  
主体性を踏まえて  
運営基盤を支える行政の  
助成の仕組みづくり

要支援者の訪問介護・  
通所介護は、専門職が  
対応すべきもの以外は、  
基本的に助け合い活動へ  
移行を目指すべき

新設のコーディネーターは  
その地域の助け合い活動  
の中からふさわしい人が  
生まれる環境づくり

## 住民ならではの多様性・柔軟性を尊重した行政の後方支援を

### 【評価の考え方】

- 参加者の幸福感 自己肯定感や自立意識の向上の変化を重視
- 活動目標や実施計画の検討は、住民が目指す地域像に向けて主体的に決定し、達成度も自らまず評価
- 「協働」の仕組みとしての実践
- 地域に出ていく頻度、何らかの活動及び役割に参加する人数の広がりの確認
- 多世代・他分野の取り組みまたは連携の積極的な支援状況  
(企業、学校、商店街など、福祉の枠を超えた連携) など

地域には、

誰にも役割があり、誰にも出番があります。

誰もが 最後まで 住み慣れた地域で

尊厳ある暮らしが送れるように

そんなあたたかい社会を

みんなで一緒につくりませんか？

夢・ふれあい社会



公益財団法人

さわやか福祉財団

— ご清聴ありがとうございました